

第7回日本視野学会学術集会

ランチョンセミナー5

日時▶2018年5月13日(日) 12:10~13:10

会場▶第1会場(石川県立音楽堂 2F コンサートホール1階席)

Multimodal imagingを用いた 黄斑疾患診断あれこれ

座長のことば

ひとことで黄斑疾患の診断と言っても病態はさまざまであり、一側面を捉える単一の画像検査機器だけでは診断が困難な場合が少なくありません。

近年の画像診断では、多様な画像検査機器の結果を組み合わせ観察する「Multimodal imaging」という概念を用いるようになり、例えばマイクロペリメータ(網膜感度)やOCT(網膜形態)の画像を組み合わせることによって、より病態を反映した情報を得ることが可能になります。

今回のランチョンセミナーでは、このMultimodal imagingを用いたさまざまな黄斑疾患の診断について、飯田知弘先生(東京女子医科大学)と北橋正康先生(千葉大学)に多くの症例を交えてお話しいただきます。

視野に大きな影響を与える黄斑疾患の診断について、明日からの眼科診療にすぐに役立つお話しが聞けるものと楽しみにしています。皆様のご来場をお待ちしております。

座長



Shuichi Yamamoto

山本 修一先生

千葉大学大学院医学研究院眼科学 教授

演者



Tomohiro Iida

黄斑疾患診断と マイクロペリメータ

飯田 知弘先生

東京女子医科大学眼科 教授

演者



Masayasu Kitahashi

マルチモーダルイメージング ～形態解析と機能解析の融合～

北橋 正康先生

千葉大学大学院医学研究院眼科学 講師